



かじか



平成29年度 3月号(2) 岩国市立美川小学校

平成29年度もあと少しです

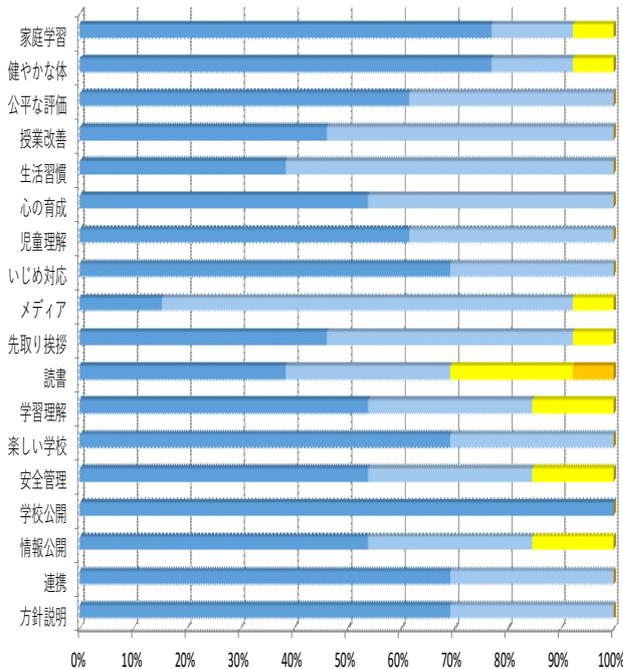
3月も中旬となり、今年度も残すところあと19日となりました。

6年生が学校に来る日も10日を切り、卒業式の練習が始まりました。この練習を通して、6年生は、卒業そして中学校への進学に向けての、5年生以下の在校生は、4月からの新しい学年に向けての意欲や希望、期待等の心のスイッチが入ります。私たち教職員も子どもたちが晴れやかな気持ちで次のステージに進めるように支援を続けているところです。

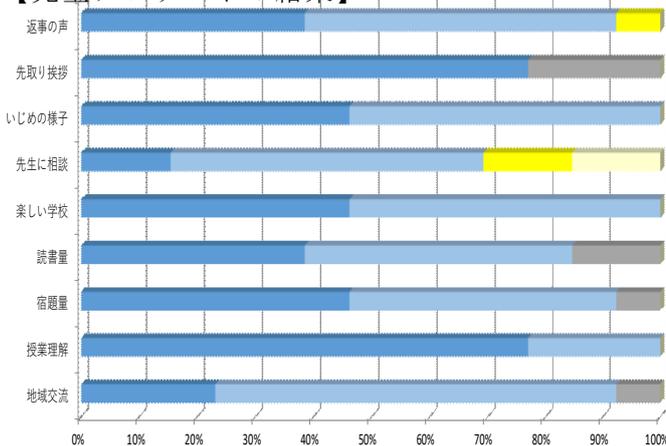
平成29年度 後期学校アンケートの結果

先月に行った今年度後期の学校アンケートの集計ができました。記述でのコメントには今後の教育実践において示唆に富むご意見が多くありました。お忙しい中回答をいただきありがとうございました。

【保護者アンケートの結果】



【児童アンケートの結果】



記述回答

保護者 クラスだよりは詳しく書いてあり、「こんなことをしてるんだ」が分かりやすいです。

保護者 挨拶が大きい声で言えて気持ちいいです。

保護者 学校では進んで挨拶するようですが、親といるときは進んでしません。

保護者 3年生になったら質問するとき敬語で言えるようになるといいです。

保護者 応用が必要な学習については複式のデメリットを感じる。

保護者 体力向上の基準が低学年になっていると感じるときがある。

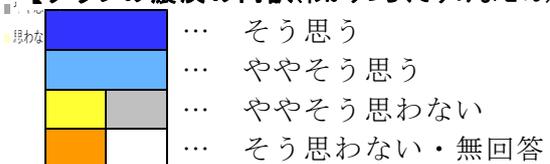
保護者 少人数であることのメリットが少ないように思う。

保護者 (給食の合理化により)以前より質・量が悪くなったと子どもが申しえています。

保護者 以前に比べて挨拶はよくするようになったと思います。

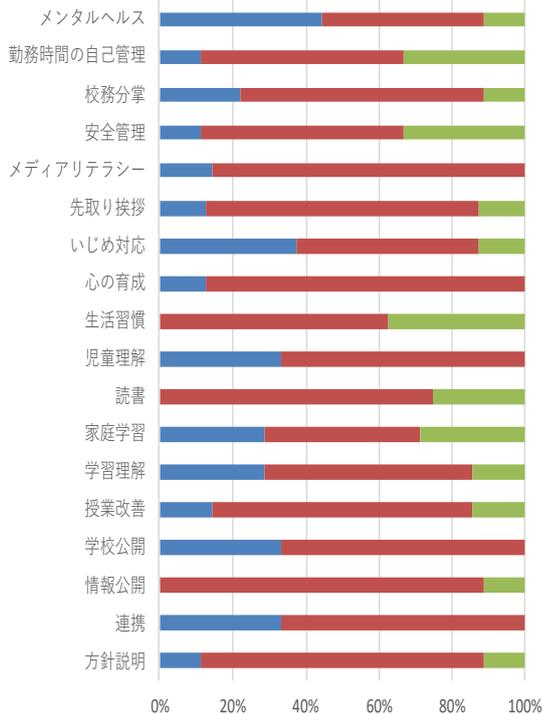
児童 全校遊びでサッカーをしてください。サッカーをしたいです。音読のページを少なくしてほしい。

【グラフの濃淡の内訳(わかりづらくすみません)】



- 児童 家でも学校でもできるような、たくさんの宿題をしたいです。
- 児童 算プリはもういいけど漢プリはもっとしたい。グラウンドゴルフをもっとしたい。
- 児童 宿題をふやしてほしい。
- 教職員 基本的な生活習慣に大きな差を感じている。
- 教職員 忘れ物が多い、ハンカチを使わないなど基本的なことが身につけていない子がいる。
- 教職員 週一回の衛生検査などで、子どもに意識付けして試してみてもうどうだろうか。
- 教職員 基本的には優しく受け入れようとするが個人差を感じる時がある。会話力の向上が課題。
- 教職員 宿題を難しく感じて挫折する子がいる。実態をよく見て出したい。褒める。
- 教職員 家庭学習について、内容の検討が必要では？。

教職員アンケートの結果



グラフの濃淡の内訳は左から

- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない

昨年より本校の課題となっている読書活動ですが、成果が限定的なのか評価の向上に至りませんでした。今年度は読書活動推進担当の先生にも来ていただき、図書館の整備、読み聞かせの実施、図書室や図書の利用方法の指導などの啓発指導に努め、子どもの読書意欲や学校での読書習慣については改善が見られました。ただ、家庭への効果波及は限定的だったのかもしれませんが、良いことではありませんが、読書活動推進のために図書を活用した家庭学習(宿題)の設定なども考える必要がありそうです。

広報活動については岩国市の学校パソコンが機材とシステムの更新のため11月末から1月末までホームページ更新ができない中「クラスだよりは詳しく書いてあり(中略)分かりやすい。」と紙媒体でのお知らせに評価をいただきありがたく思いました。

「体力向上の基準が低学年になっていると感じるときがある。」という記述には「はっ」とさせられました。「下学年を待つ」という優しさの盲点を示唆いただいたコメントでした。学年や得手不得手による個人差を越えて、すべての子どもにとって充実した運動になるように内容・目標等を改善していこうと思います。なお、気がかりを払拭する情報として、県内水泳記録会の記録集計が終わり、本校が男女混合リレーで6位入賞したとの連絡を受け、先日全校朝

会で届いた賞状を授与したことを紹介させていただきます。

応用が必要な学習への取組は、山口県全体で「活用力を高める」ことを目標として個の力を伸ばすための多様な取組をしています。特に複式の授業形態は新しい学習指導要領がめざしている「主体的で対話のある深い学び」を達成するのに最適な授業形態だと認識しています。これからも「深い学び」の充実のために、課題づくりや提示の工夫、ヒント等、支援方法の研究を進めて授業力向上に努めたいと思います。また、「家庭学習の手引き」が学力の課題解決につながるように、内容や取組方法の再検討や追加説明等の改善を行い、全ての児童が利用しやすい手引きとなるように内容充実を図ることを来年度の課題としております。

読書活動と同様気になるのが「あいさつ」に寄せられた記述回答です。以前「かじか11月号」で触れましたが、教育の真価は(学校の)手を離れたときだと思っています。学校以外の場面でも学んだこと、身につけたことができるように指導の工夫・改善を続けたいと思います。

貴重なご意見を生かしながら、引き続き来年度も保護者、地域の皆様によるご支援をいただきながら、子どもたちの成長を支援して参りたいと思います。

※ 細かい文字による記述で読みにくくて申し訳ありません。近日中に拡大できる形でホームページへのアップ(掲載)を予定しています。